

2026年6月13日発行

No.59

早稲田大学本庄高等学院通信

緑風かぜ

書：3B 井上 優杏（書道部）

発行：早稲田大学本庄高等学院 発行人：半田 亨 〒367-0032 埼玉県本庄市栗崎239-3 ☎0495-21-2400 <https://www.waseda.jp/school/honjo/>

「たてももの」に興味を持って欲しい

早稲田大学本庄高等学院 学院長 半田 亨



最初に断りたいですが、私は建築の専門家ではないので、以下の文章はあくまでも私の感想を元にしたものです。専門家の方からすると、違和感のある内容があるかもしれませんが、ご了承ください。

私の高校時代の親友が大学（早稲田）で建築を勉強していたために、大学時代、名建築と称される作品を見ながら行かれたり、雑誌「新建築」を見せられながら延々と説明されたり、果てはこちらも忙しいのに課題のペースを手伝わされたりしました。早稲田の建築科にも友人がおり、徹夜の課題に動員されたこともあり、その影響か、建築物を見るのが好きになりました。もともと歴史も好きだったので、その対象は時代を問いません。加えて今年の卒業生のお城に関する卒論を担当したことから、それまではあまり興味なかったお城も興味の対象になりました。

最初に最近、私が訪問したいくつかの建築物をご紹介します。

顔写真の右上に顔のような宙ぶらりんの物体がありますが、これは長野県茅野市にある、東大名誉教授藤森照信の作った茶室「空飛ぶ泥舟」です。その近くに「高過庵」「低過庵」の2つの茶室があります。「空飛ぶ泥舟」を見た時は、

「どうやって中に入るのか？」と思いました。なんと支える柱の脇に専用の梯子が横たわっていました。

規模の大きな会津若松の（写真）、太田市の

曹源寺、そして地元本庄市の成身院百体観音堂は日本三大さざえ堂として有名です。さざえ堂の中は一方通行の回廊になっていて、入る人と出る人がすれ違わないのが特徴です。回廊に観音様が配置され、堂内を一周するだけで、お遍路せずとも巡礼したことになるかとされています。本庄市のもは里玉にあり近いので、是非一度ドライブがてらにお寄りください。

松本城は日本五大国宝の1つとして有名です。ここは、お城に関する卒論を読んだことをきっかけに、行ってみました。3月で、ちょうど背景の雪山との対照が綺麗でした。

会津若松市、円通三匠堂(重要文化財、通称さざえ堂)、1796年



茅野市、高過庵、藤森照信、2004年

これは私の持論ですが、良い建築物はその魅力が人を魅了する時間が必要で、豊かな人間性を持つ人と付き合っていると、会う度に新しい魅力が感じられるように、それは人間同士の関係と似ています。設計者の思いがすぐにわかっ



軽井沢町、カトリック軽井沢聖パウロ教会、アントニン・レーモンド、1935年

軽井沢は、街の成立の歴史からも教会の多い街ですが、特にこの教会は設計者のネームバリューやその形状から、軽井沢のガイドブックやテレビ番組で頻りに紹介されています。有名な作品です。

これは私の持論ですが、良い建築物はその魅力が人を魅了する時間が必要で、豊かな人間性を持つ人と付き合っていると、会う度に新しい魅力が感じられるように、それは人間同士の関係と似ています。設計者の思いがすぐにわかっ

U 締結のため、台湾の台南市を訪問しました。台湾には日本人が作った建築物が多いのですが、特に台南には林百貨店や台南駅その筆頭として、多くの作品をそこかしこに見ることが出来ます。これは気象台の測候所ですが、中は扇形にそれぞれ別の仕事をするための細かい部屋に分かれており、ユニークな構造になっています。

軽井沢は、街の成立の歴史からも教会の多い街ですが、特にこの教会は設計者のネームバリューやその形状から、軽井沢のガイドブックやテレビ番組で頻りに紹介されています。有名な作品です。

一般的にデザイン優先に見えるコンクリート打ち放しの建築は、「使い勝手が悪い」「意味がわからない」と批判されがちです。ひよっとしたら本庄学院の体育館にもそんな意見があるかもしれません。本庄学院の旧校舎もそうだったかもしれませんが、旧校舎を使った立場で感想を書くと、教室や体育館、教員室、会議室などの狭さと移動教室制でありながら動線の悪さは教育事情に対応していなかったかと思いますが、教室や廊下毎に表情を変えて移動の楽しさを作ったり、中庭を周回しての建物から見ることができ、点は良かったと思います。中庭の良さはドラマチックに見ることができたのが、旧校舎時代、中庭で行われた稲穂祭の中夜祭と後夜祭でした。中庭で肩を組んで紺碧の空を歌う学院生とそれを2階のベランダから見のお客さんの様子がコンサートホールのように見えました。しかし、そのことが分かったのは現在の校舎に移ってからでした。当時は、それが分かっていませんでした。

現在の校舎も体育館も、雑誌で取り上げられているような名建築です。これからも使っている過程で「こんなところに」と、設計者の思いやこだわりが分かる場面が出てくると思います。例えば、現校舎のN310教室近くの階段からエントランスを見下ろす光景やセミ室2の廊下から中央階段を見下ろす光景は、本場によく考えて作られていると思います。この原稿は4月8日に書いていますが、前日は大隈講堂での入学式でした。何度も使っています。これいいなと思える瞬間があります。私が大隈講堂で一番好きな場所は、入り口の大アーチを入って左側の貴賓室へ行く途中の大隈庭園を望む通路です。天井の白い漆喰に映る照明の影などもよく考えられていると思います。

しまう、あるいは感じられない建築物はそこまでの作品です。一番わかりやすい例を挙げると、箱型の学校建築やかまぼこ屋根の体育館でしょうか。経済的機能的であっても、設計者の思いや含みが感じられません。

一般的にデザイン優先に見えるコンクリート打ち放しの建築は、「使い勝手が悪い」「意味がわからない」と批判されがちです。ひよっとしたら本庄学院の体育館にもそんな意見があるかもしれません。本庄学院の旧校舎もそうだったかもしれませんが、旧校舎を使った立場で感想を書くと、教室や体育館、教員室、会議室などの狭さと移動教室制でありながら動線の悪さは教育事情に対応していなかったかと思いますが、教室や廊下毎に表情を変えて移動の楽しさを作ったり、中庭を周回しての建物から見ることができ、点は良かったと思います。中庭の良さはドラマチックに見ることができたのが、旧校舎時代、中庭で行われた稲穂祭の中夜祭と後夜祭でした。中庭で肩を組んで紺碧の空を歌う学院生とそれを2階のベランダから見のお客さんの様子がコンサートホールのように見えました。しかし、そのことが分かったのは現在の校舎に移ってからでした。当時は、それが分かっていませんでした。

学院生の皆さん、皆さんが毎日生活する本庄キャンパスにも早稲田大学にも、建築がたくさんあります。使いながらも、ふと設計者の考えたことに思いを馳せてみると、学院生活・大学生活にちよつとした喜びが生まれるかもしれません。

この問いの答えを探るために、まずは学習指導要領を見てみましょう。学習指導要領によると、生徒会活動とは「異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組むこと」を指します。「集団行動」「合意形成」「社会参画」の「資質・能力を育成すること」を目指すものと定義されています（文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」より引用）。私が学習指導要領の中でも特に強調しておきたいのは、「生徒会執行部が生徒会という団体です。学習指導要領には「学校の全生徒をもって組織する生徒会」という記述があります。「生徒会」という言葉の定義から考えると、「生徒会メンバー」とは学院生約980人のことを指します。生徒会活動とは、決して生徒会執行部の十数名の役員だけが行うものではなく、学院生全員で行うべきなのです。学習指導要領の内容をまとめると、生徒が主体となって学校生活をよりよくする活動（生徒会活動）を中心として推進することが生徒会執行部の役割だといえるでしょう。

43期目も折り返し地点に差し掛かっています。改めて生徒会執行部が存在する意義について述べていきます。いったい何のために生徒会は存在しているのでしょうか。

この問いの答えを探るために、まずは学習指導要領を見てみましょう。学習指導要領によると、生徒会活動とは「異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組むこと」を指します。「集団行動」「合意形成」「社会参画」の「資質・能力を育成すること」を目指すものと定義されています（文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」より引用）。私が学習指導要領の中でも特に強調しておきたいのは、「生徒会執行部が生徒会という団体です。学習指導要領には「学校の全生徒をもって組織する生徒会」という記述があります。「生徒会」という言葉の定義から考えると、「生徒会メンバー」とは学院生約980人のことを指します。生徒会活動とは、決して生徒会執行部の十数名の役員だけが行うものではなく、学院生全員で行うべきなのです。学習指導要領の内容をまとめると、生徒が主体となって学校生活をよりよくする活動（生徒会活動）を中心として推進することが生徒会執行部の役割だといえるでしょう。

次は他の高校の生徒会の方から聞いた意見も参考にしてみましょう。私は他校の生徒会の方と話す機会がよくあるのですが、その際によく耳にするのが「新しいことをやりたく

でも、先生が全然話を聞いてくれない」と、教員とのかわりに関する意見です。そのような意見から生まれるのが、「生徒会は、生徒を代表して、教員」という巨大な権力に立ち向かうべき存在であるという考えです。学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決」という目的のもとで、最適な方法が教員に立ち向かうことならば、私はこの意見を否定しません。ただ、生徒会執行部が率先して教員・生徒間の過度な対立を引き起こすのは合理的なこととは思っていません。これは本庄高等学院という環境の中でのみ通用する理想論なのかもしませんが、何事においても対立よりも協調が重要だと考えています。以前ある高校の人から聞いた、「生徒会執行部は生徒と教員との架け橋になるべきである」という意見に私は全面的に賛成します。

生徒会執行部として果たすべきこと

生徒会長 町田 和真（3年G組）

皆さまは現在の生徒会が第何期であるかご存知ですか。ご存知の通り、私たち生徒会は第43期です。生徒会の歴史は、開校以来43年間にわたって連続と積み重ねられてきました。半世紀近くの歴史を経て、なんとなく生徒会の存在が当たり前のものになってきているのではないのでしょうか。当たり前の存在だからこそ、決まった仕事・決まった役割のみを淡々とこなす、そんな組織になっていないでしょうか。昨年の42期はまさに革新の世代でした。購買・食堂へのキャッシュレス決済導入、お菓子販売開始、稲穂祭へのキッチンカー誘致、稲穂祭前日のハロウィン企画の実施、チーム早稲田感謝デーの実施など、様々な史上初の取り組みを行ってまいりました。

生徒会執行部として果たすべき役割

生徒会執行部として果たすべき役割

生徒会執行部として果たすべき役割

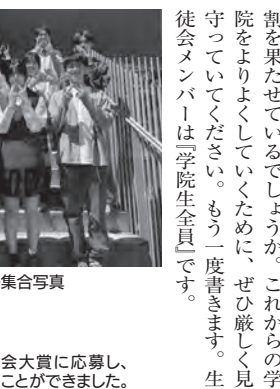
生徒会執行部として果たすべき役割

生徒会執行部として果たすべき役割

生徒会執行部として果たすべき役割

生徒会役員の写真

第10回日本生徒会大賞に応募し、活動賞をいただくことができました。



生徒会執行部として果たすべき役割

生徒会執行部として果たすべき役割

生徒会執行部として果たすべき役割

生徒会執行部として果たすべき役割



この文章を書くように言われた日の夜、人類がこれまででも遠くへ到達したと報じられました。見方によっては「米中対立がまた新たな空間へ」という話になるのですが、そんな野暮な関心はともかく、宇宙探査にまつわるニュースはいまなお聞いてワクワクします。

昔から、「行きたい場所」を訊かれたら「月」と答えていました。10歳頃、百貨店で行われた展覧会でスペースシャトルのカッコいいポスターが飛ぶように売れる中、わたしはなぜか飛行士が星条旗の隣で敬礼している月面のポスターを求めました。友達からちよつとした変わり者扱いをされたのを覚えています。同じ頃、ビデオデッキで繰り返し観ていたのは、NHKの「パノラマ太陽系」シリーズでした。あまりに何度も観たせいか、最後はテープが実際に擦り切れてしまいました。

そんな自分が軌道から外れたきつかけ

この文章を書くように言われた日の夜、人類がこれまででも遠くへ到達したと報じられました。見方によっては「米中対立がまた新たな空間へ」という話になるのですが、そんな野暮な関心はともかく、宇宙探査にまつわるニュースはいまなお聞いてワクワクします。

昔から、「行きたい場所」を訊かれたら「月」と答えていました。10歳頃、百貨店で行われた展覧会でスペースシャトルのカッコいいポスターが飛ぶように売れる中、わたしはなぜか飛行士が星条旗の隣で敬礼している月面のポスターを求めました。友達からちよつとした変わり者扱いをされたのを覚えています。同じ頃、ビデオデッキで繰り返し観ていたのは、NHKの「パノラマ太陽系」シリーズでした。あまりに何度も観たせいか、最後はテープが実際に擦り切れてしまいました。

そんな自分が軌道から外れたきつかけ

は、中学校に上がる時期の一連の出来事だったかもしれません。1月、打ち上げからほどなくシャトルのチャレンジャー号が爆発し、4月にはソ連で原発事故が起こりました。科学技術が拓く明るい未来を疑わなかった無邪気な少年に、不安と疑念を抱かせるには十分でした。その間の2月、フリーピンで政変があり、民衆を制御できなかった独裁者がヘリコプターで宮殿から亡命しました。その光景の衝撃だけが原因ではなかったはずですが、大学生以降は、何千万もの人々の暮らしを一変させる政治体制の変動に関心を寄せることになりました。政変から40年、いまのフリーピンで、当時の独裁者の息子が大統領になっていることも、興味深い現象です。

月に行きたい気持ちも、けつして無くなっていません。月旅行の商業化は2040年代というのが各種AIの共通見解のようです。ちよつと、わたしが学院を退学になるタイミング。それまでは、とにかく身体を大切に過ごさなければ。休みの日には、自宅近く、月と名のつく珈琲店で寛ぐようにしたいものです。もつとも、そのときに読む本は、相も変わらず、地上に縛り付けられたままの人々の、艱難辛苦に関するものばかりなのでしようけれど。

(飢え・多労)

活躍するOB・OG

株式会社三菱総合研究所 GX本部
 サークルエコーノミグループ
細田 幸佑



今、私はいわゆる民間シンクタンクで、資源循環に関する調査やコンサルティングをしています。皆さんには謎の会社という印象かもしれませんが、行政や民間企業から委託を受けて、リサイクルの実態を調べたり、新しい資源循環の仕組みや事業を考えたりする仕事です。省庁や自治体と政策づくりや制度の見直しを考えたり、企業とは環境問題への取り組み方や新しいビジネスの可能性を検討しています。社会課題に直接向き合い、専門性を磨けることが大きな魅力です。

ここに至るには、本庄高等学院での経験が大きく影響しました。特にSSH部(科学部)の活動は出発点となりました。野球場の東側今は太陽光パネルですね)にあった赤茶色の小さな湧水には、「鉄



海上自衛隊 第31整備補給隊 2等海尉
榎山 理愛
 (旧姓 清水)

東京から南へ約1,000kmに位置する小笠原諸島・父島。高校2年(2017年)の夏に、本庄高等学院の研修プログラムの1つであった小笠原研修に参加予定でしたが、台風の影響で中止に

なりました。空港がなく、おがさわら丸で片道24時間かけてしか行くことのできない父島では、診療所では対応できない急患が発生した場合は、本土への緊急輸送が必要になります。その任務を海上自衛隊が担っていることはご存じでしょうか。私は、2022年春に政治経済学部を卒業後、海上自衛隊に入隊し、現在は山口県岩国市の第31整備補給隊で救難飛行艇US-12の整備に携わっています。US-12であれば、父島から本土まで約2時間半で到達でき、迅速な人命救助が可能です。先日、US-12の訓練で

「バクテリア」という特殊な細菌がいて、先輩方がその働きを利用して鉄やレアメタルを資源回収できないか研究していました。私はそのテーマに強く惹かれて参加し、先生達にも色々相談させてもらいながら研究を深めました。国内外の場で発表までさせて頂きました。そして資源リサイクルの重要性と面白さを知った私は創理工学部の環境資源工学科に進み、本格的にその研究をすることになりました。

もう一つ大きかったのは、理系でありながら、学院の授業や政経部の活動を通じて社会科学へも興味を持つたことです。技術だけでなく、社会の仕組みという広い視点から社会課題へ取り組みたいと思うようになり、今の意志と発想次第で、普通の高校ではなかなかできない経験に挑戦できる環境や機会があると思います。先生方も親身に相談に乗ってくださると思いますし、時には自らの専門全開の授業で、「自分の領域」を切り開く面白さを教えてくれます。ぜひ目の前の機会を大切に、将来の自分の糧になるユニークな学院生活を送ってください!

父島を訪れる機会があり、学院時代に行けなかった場所に「任務として」降り立つたことで、自分の仕事の意義を改めて実感することができました。

学院時代、私はタイ研修、シンガポール研修、IICCなど、多くの海外研修の機会に恵まれました。これらの経験から国際交流への関心を深め、海外との交流が多い海上自衛隊を就職先として選びました。実際、入隊から1年後には、遠洋練習航海で北米・中央・南米の8か国11寄港地を巡り(マゼラン海峡も通航しました!)、各地で同世代の士官と交流する中で、国際協力の意義を肌で感じる

ことができました。高校生時代の体験は、その後の進路や価値観に大きな影響を与えます。現在は、私の在学当時より海外研修の機会が増えていると聞き、とても羨ましく思っています。受験がない分、自分の興味とことん向き合えるのが学院の魅力です。その環境を最大限に活かし、充実した学院生活を送ってください!



早稲田大学大学院
 創理工学専攻修士課程 経営デザイン専攻
水野 文萌



皆さんはラクロスというスポーツをご存知でしょうか。私は現在、早稲田大学創理工学専攻に在学中で、学術院に通いながら、ラクロス女子日本代表として、今夏日本で開催される世界大会出場を目指して活動しています。ラクロスとの出会いは大学入学時でした。体験入部で目にしたのは、本気で練習に打ち込む姿で、その熱量に強く惹かれ入部を決めました。また、多くの選手が大学から始める競技であり、ここからでも高みを目指せると感じたことも理由の一つです。大学では競技に打ち込み、3年時に学生日本一を達成し、U20世界大会では優勝を経験しました。

本庄学院時代、私は陸上部に所属していましたが、思うような結果を残すことができませんでした。中学までバスケットボールをしてきた中で、結果がついてこない悔しさを、自分の無力さを初めて

2020年3月学院卒の小林香菜と申します。私は法学部卒業後2024年4月から実業団選手として陸上競技に取り組み、2025年9月東京世界陸上の女子マラソンに出場しました。ありがた

世間で「異色のランナー」と取り上げられることが多いのは、大学で競走部と所属してなかったからです。中学高校と陸上部でしたが、大学入学時に本格的に競技として走ることをやめて趣味として走ることにしたのです。もともと長い距離を景色を見ながらジョグするのが好きで、富士山マラソンでサークルの仲間と雄大な自然の中を走る楽しさにはまり各地のマラソンに出るようになりました。そんな中で、陸上部時代に味わった記録

私にとっての本庄高等学院

実感しました。一方で、インターハイに出場する仲間や、自主的に努力を重ねる同級生の姿に刺激を受け、「自分も何かを極めたい」という思いが強くなりました。

この経験があったからこそ、大学では誰よりも考え、誰よりも練習することにこだわり続けてきました。朝4時半に起きて練習に向かい、授業と課題をこなし、再びグラウンドに立つ日々は決して楽なものではありませんでしたが、高校時代に感じた悔しさが自分を支える原動力となっていました。

後輩の皆さんに伝えたいのは、「結果が出ていない時間にも意味がある」ということです。私自身、本庄時代は決して結果を残した選手ではありませんでしたが、そのときに感じた悔しさを無力さがあつたからこそ、大学でここまで本気で競技に向き合うことができています。今、うまくいっていないと感じている人ほど、その経験を大切にしてください。目の前の悔しさを葛藤は、必ず次の挑戦で自分を支える力になります。自分の可能性を信じて、挑戦し続けてください。

を出すことの達成感を求めている自分、高校時代に怪我で思い切り走れなかった心残りを感じていました。そして、「マラソン選手になる」という無謀な決断に至ったのです。

私、このように思い切った行動に出られた背景には学院で過ごした日々、出会った仲間たちの影響があったように思います。さまざまなバグググラウンドを持ち個性豊かな友人たち、自主性を重んじる授業や部活……。そういった中で、私の中にも知らず知らずのうちに何か大きな力が育っていたのかもしれない。

私が皆さんに伝えたいのは、「今の生活を大いに楽しんでほしい」ということです。個性豊かな同級生や先輩・後輩、先生方と関わって、自分の世界や考え方を広げてほしい。自分の軸は大切にしつつ、周りの意見や行動に耳を傾けて、たくさんの方と吸収してほしい。今しかない「十人十色」な学院での日々を大切に!!

留学生の紹介



黄 芷瑜 さん
 (ゆりさん)

こんにちは。台湾の台北第一女子高校から来ました。黄芷瑜(コウ・シユ)と申します。日本語の名前はゆりです。現在、日本台湾交流協会が主催する「台湾高校生留学事業」に参加し、3年B組で学んでいます。

小さい頃から日本に親戚が多く、長期休暇のたびに祖母の家を訪れていました。その中で、日本は私にとって特別な場所になり、いつかここで生活してみたいと思うようになりました。また、アメリカや日常の中で見ていた日本の高校生活にも興味を持つようになり、留学を決めました。

実際に日本での生活が始まってからは、毎日がとても新鮮で、あつという間に時間が過ぎていきます。稲穂祭や球技大会などの学校行事や、部活動の合宿などを通して、日本ならではの高校生活を実際に体験することができました。

特に印象に残っているのは稲穂祭です。準備の段階からクラスメイトと関わる時間が多く、当日は校内のぎややかな雰囲気の中で、いろいろな企画やパフォーマンスを楽しむことができました。最後にみんなで紙飛行機を飛ばした瞬間は、今でも心に残っています。

また、普段の授業や何気ない会話の中でも、文化や考え方の違いに気づくことが多く、そのたびに新しい発見があります。そうした日常の積み重ねが、自分にとって大きな意味を持っていると感じています。

ご案内

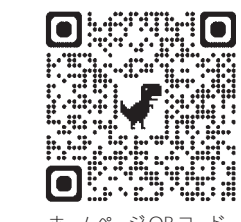
『復刻版 学徒出陣最後の早慶戦』
 復刊にあたって
 『最後の早慶戦』保存会会長
 中野雄三郎



2025年は「戦後80年」「六大学野球連盟100周年」の大きな節目の年。私たちは、長く絶版状態が続いた書籍『最後の早慶戦』保存会を立ち上げ、復刊プロジェクトを開始しました。

本書は、学徒出陣の直前、敵国スポーツと弾圧される中、幾多の困難を乗り越えて開催された早慶戦に全てをかけた学生達の物語です。これは単なる野球の記録、反戦の書ではありません。戦争による青春を突然断ち切られた学生たちの「生きた証」でもあります。最後の早慶戦にかけた学生たちの姿は、現代を生きる私たちに多くのことを教えてくれます。私たちが今こうして早慶戦をはじめとする様々なスポーツ、仕事や趣味に打ち込めることは当たり前ではなく、それが叶わなかった人たちがいることを忘れてはなりません。本書が命の尊さ、戦争と平和について考えるきっかけに本書がなればと思います。

本書は本庄高等学院の図書室にも寄贈いたしましたので、少しでも興味をお持ちいただけましたら幸いです。本書の詳細はホームページでもご覧いただけます。



ホームページ QR コード

各種プログラム報告

数理解外活動「これがサイエンスだ！」

- ◆2025年度講義 (2026年1月～)
 - 第7回 2月13日(金)「この世のあいまいさを明瞭にーファジ理論への誘いー」
数学科講師 山家大誠
 - 第8回 2月17日(火)「面積を求めるためのてんやわんや」
数学科教諭 成瀬政光
- ◆2026年度講義 (～2026年5月)
 - 第1回 4月22日(水)「Farid先生と素粒子物理実験のデータを解析しよう！」
オスロ大学 Farid Ould-Saada 氏

◆2025年度春合宿
春合宿は2026年3月11日(水)から13日(金)の2泊3日で行われました。参加者は代数・確率・放射線の3つのパートに分かれ、以下のテーマで3日間かけて探究活動を行いました。
代数パート：整数の分割とヤング図形
確率パート：確率過程による社会現象の数理解モデル化
放射線パート：放射線によるがん治療のシミュレーション
また、探究活動の合間には、12日(木)に化学科中村教諭から「分子模型で学ぶ立体異性体」というタイトルで特別講義が行われました。なお、最終日の成果報告会・卒論報告会、希望する新入生にも参加してもらいました。
合宿を通じて生徒たちは、普段経験できない時間を気にせずチームワークでサイエンスをするという経験ができました。詳細はこちらのQRコードから学院HPの記事をご覧ください。



国際交流活動

◆International Collaborative Research Project (ICRP) 2026 (台湾研修12月21日(日)～25日(木)、ICRF2026年1月24日(土))
ICRPは立命館高校が主催する国際共同研究プロジェクトで、日本の十数校と海外校が半年間オンラインで共同研究を行い、1月24日のInternational Collaborative Research Fair (ICRF) 2026で研究発表を行うプロジェクトです。特にこの事業の連携校である国内6校は12月に台湾とカンボジアに分かれ、対面での共同研究・研究発表・交流活動を行いました。本庄学院の2名(3年安田未羽・1年松井琥珀)は台湾高雄市の高雄高級中学の3名とポータル水力発電機の羽の形状及び撥水性と発電効率に関する共同研究を行っており、12月に台湾を訪問しました。



◆Hana Academy Seoul(HAS)との相互短期留学
韓国ソウル市にある姉妹校HASと本庄学院の間では、1週間ほどの相互短期留学を実施しています。今年度は1月10日(土)～1月18日(日)の間6名の生徒を受け入れ、3月19日(木)～3月27日(金)の間6名の生徒(1年古口友梨・神田晴花・柳瀬美宙・杉島由真、2年山本翔大・木下翔太)がHASを訪問しました。



◆タイ研修(1月29日(木)～2月5日(木))
毎年恒例の、姉妹校であるMahidd Wittayanusorn School (MWIT)を訪問する、タイ研修を今年も上記の日程で実施しました。参加者は2年武田琥珀・豊原琉生・西部由莉・安田莉葉・今川小詩・武田悠里・井出奈久・竹之内優花・和氣彩華、1年松井琥珀です。王宮訪問・大学での稲作や熱帯昆虫についてのワークショップ・多くの実験教室・ムエタイ体験、そしてパティとの宿泊研修など盛りだくさんの内容でした。



◆ミニシンポジウム「国際交流への誘い」(3月20日(金) 19:00～20:00)
オンラインで新入生に向けて本庄学院の国際交流活動の紹介を行いました。保護者の方を含め約160名が参加し、関心の高さが見られました。国際交流経験者によるパネルディスカッション形式で行われました。

◆国立台南第一高級中学とのMOU締結
3月27日(金)台湾台南市の台南第一高級中学(以下台南一中)において、本庄高等学院との間のMOU締結セレモニーが行われました。台南一中との関係は昨年夏に、本庄高等学院の河川研究班が訪問して実施された合同河川調査がきっかけです。



地域貢献プログラム

◆台南市西門実験小学校が来校(11月18日(火))
2025年2月に台湾・台南市と本庄市が友好交流協定を締結したことを受け、台南市西門実験小学校(Tainan Municipal Simen Elementary School)の児童30名(4～6年生)教員5名が本庄学院を訪問し、本庄学院で学んでいる台湾からの留学生黄さんの講演、実験教室を行いました。

◆河川調査班による貯水池・男堀川における環境DNA調査活動(12月2日(火))
河川研究班が、新幹線本庄早稲田駅近くの貯水池と新幹線駅脇を流れる男堀川の環境DNA調査活動を行いました。この取り組みは、埼玉県環境部環境課埼玉ネイチャーボジティブ部(埼玉県

ネイチャーボジティブ推進分科会)の活動の1つとして実施しました。埼玉県環境科学国際センター木村先生が指導してくださいました。講義の後、採水しDNAサンプル作成までを体験しました。

◆Waseda English Kids2025 (12月7日(日))
このイベントは小学生たちに対して英語でコミュニケーションすることの楽しさを伝えることと地域貢献を目的として毎年開催しているイベントです(協力(公財)本庄早稲田国際リサーチパーク)。12月7日(日)の午前・午後2部制で実施し、それぞれ15名の小学生4・5・6年生が参加しました。本学院で学んでいる4名の留学生、8名のボランティア学生、2名の大学生が講師となりました。



◆小学校プログラム「水の生物」@仁手小(12月10日(水))
本庄高等学院は、地域貢献活動として本市市内小学校の総合学習支援を行っています(協力(公財)本庄早稲田国際リサーチパーク)。本市立仁手小学校5年生児童に「水の生物」というテーマで2時間続きの講義を行いました。5時間目は本市市内の河川に住む生物や外来種について、楽しいクイズを交えて紹介し、6時間目は海の世界を生きるために、未精製のチリメンシロからシラス以外の生き物、ちりめんモンスターを探る作業を行いました。それぞれが気に入ったちりめんモンターとラミネートフィルムを使って、オリジナルの葉も作成することができました。



◆小学校プログラム「国際理解」@藤田小(12月10日(水))
12月10日(水)、本市立藤田小学校にて、6年生を対象とした国際理解授業を実施しました。この取り組みは(公財)本庄早稲田国際リサーチパークと連携し、市内の小学生に国際理解教育を提供し、異文化への関心を深めることを目的としています。本校で学んでいる台湾出身の黄芷瑜(コウ・シユ)さんと、Emily Wilding (エミリー・ウィリング)さんが講師を務め、学院生2名が通訳およびファシリテーターを担当しました。

◆小学校プログラム「国際理解」@藤田小(1月14日(水))
1月10日(土)～1月18日(日)の日程で、本校の姉妹校である韓国Hana Academy Seoul (HAS)から短期交換留学生6名を受け入れています。市内藤田小学校5・6年生児童29名と交流を行いました。HASの生徒たちは英語で説明を行い、学院生3名が通訳を務めました。

◆小学校プログラム「河川の水質」@秋平小(1月14日(水))
秋平小学校で「河川の水質」をテーマに総合学習支援プログラムを実施し、河川研究班の6名が講師を務めました。

◆小学校プログラム「国際理解」@金屋小(1月21日(水))
本市立金屋小学校にて、5年生を対象とした国際理解授業を実施しました。今回は、本校に在学中の黄芷瑜(コウ・シユ)さんがご出身の台湾について紹介し、帰国生の2年竹之内優花さんが、小学生2年生まで過ごしたアメリカの生活を英語で紹介しました。学院生2名が通訳およびファシリテーターを担当し、児童が理解しやすいようサポートしました。

◆小学校プログラム「紙で丈夫な橋をつくらう」@藤田小(2月4日(水))
学院生5名が本市立藤田小学校の5・6年生を対象に、「紙で丈夫な橋を作ろう」と題した物理をテーマとする講義を行いました。講義では、「橋」にはさまざまな構造の種類があることや、力をどのように分散させているかについて紹介しました。児童は、1人1枚配られた紙とはさみ、ホチキスのみを使って、制限時間内に橋を制作しました。完成した橋は、15cmの間隔を空けて配置した机の上に架け、重りを吊り下げる方法で強度を測定しました。

◆2026年度川のシンポジウム・川の日ワークショップ関東大会
3月21日(土)12:45より例年この時期に開催している川のシンポジウム2026(主催：早稲田大学本庄高等学院・本市立藤田小学校・(公財)本庄早稲田国際リサーチパーク)を開催しました。このイベントは、2012年より一緒に本市内の河川環境保護活動をしている本庄学院と藤田小が主催し、広く市民に向けて市内河川環境の実態を広報することを目的として開催しています。小学校のネットワークが広がり、今年は藤田小の他に二校(秋田・三重)の参加がありました。

◆論文実習オリエンテーション
論文教育を重視する本庄高等学院と慶應湘南藤沢高等学校の間では、2006年より双方の学校で優秀論文のシンポジウムを開催する取り組みを行っています。慶應湘南藤沢高等学校で開催された論文オリエンテーションに3年福井美緒さんがご招待を受け、卒論「日本とアメリカの学校給食の比較～小学校の献立における主成分分析～」の発表を行いました。

◆ラグビー部
新人戦 北部地区予選
1回戦 12月14日 早大本庄 28 - 24 清川総合
2回戦 12月21日 早大本庄 0 - 47 熊谷工業
関東大会県予選
1回戦 4月12日 早大本庄 58 - 5 合同A
2回戦 4月18日 早大本庄 3 - 53 熊谷
国スポ北部地区予選
1回戦 5月2日 早大本庄 45 - 12 合同A
決勝 5月9日 早大本庄 31 - 24 松山
県北部地区予選を1位通過することができました！5月30日から始まる県予選においてシード権を獲得し、9月から始まる花園予選でベスト8に入ることができるよう日々練習に励んでいます。引き続き応援のほど、よろしくお願致します。学院生諸君、ラグビーは本当に素晴らしいスポーツです！いつもどおり入部OKです。ラグビー経験の有無、運動経験の有無は関係ありません！ラグビーは誰もが主になれるスポーツです！楯岡球に少しでも興味のある人、何か部活に入ろうと考えている人、充実した学院生活を送りたい人は是非グラウンドへ見学に来て下さい！！

◆読書部
2026年埼玉県書き初め中央展覧会
特選賞：井上 優香、瓜田 結香、加藤 沙彩、増岡 彩香
優良賞：岡 明佑香

◆茶道部
本庄東高校茶道部との交流
4月1日(水)午後、本庄東高校(以下、東高)茶道部をお招きして、交流お茶会を開催しました。東高茶道部とは2年前から互いに招待お茶会を開催しています。茶道部のお茶会は、文化祭やお客様のおもてなしなど、通常一般の方に対して行われます。このように、お互い茶道を学んでいる相手に対してお手前をする機会は、その意味で非常に貴重な経験です。

◆自転車部
太田 昌宏(3年)
3/13～16 全国高等学校選抜自転車競技大会(グリーンロード)前橋、日本サイクルスポーツセンター)トラックレース4km速度競争準決勝出場ロードレース出場(DNF)

◆硬式テニス部(男女)
・関東予選大会埼玉県北部地区予選(4月10日～13日)県大会出場分
男子シングルス 7位 中田 琉生、14位 石川 修大、25位 葛田 櫻斗、33位 岩田昊志郎
女子シングルス 4位 齋藤 千咲、14位 松元 瑞希
男子ダブルス 6位 中田・葛田、8位 石川・岩田、15位 塚岡・藤本
女子ダブルス 5位 齋藤・松元、15位 澁谷・川口
・関東予選大会埼玉県大会(個人戦)(4月28日・29日)
男子シングルス ベスト64 中田 琉生
女子シングルス ベスト32 齋藤 千咲
(5月末に行われる学校総合体育大会埼玉県予選会に出場決定)
女子ダブルス ベスト32 齋藤・松元
・関東予選大会埼玉県大会(団体戦)(5月16日・17日)
男子 ベスト16
女子 5位(6月に行われる学校総合大会埼玉県予選会に出場決定)

◆ソフトテニス部(男子)
4/3 県北選手権大会・高校の部 男子優勝 鈴木時範(3D)、浅見陽生(2F)ペア
※1952年から続く、北部・西部地区の学校が出場する大会で、本庄学院生初の優勝です。
4/21・24 関東大会県予選支部大会・男子個人戦優勝 浅見陽生(2G)、星 湊人(1H)ペア
※優勝の浅見・星ペアと枠外(地区予選免除)の鈴木・浅見ペアの2ペアが県大会に出場。
5/4 関東大会県予選・男子個人戦ベスト8 鈴木・浅見ペア ベスト16 浅見・星ペア
※上記2ペアは5/30に茨城県水戸市で行われる関東大会男子個人戦の出場権を獲得しました。

◆バスケットボール部(男子)
令和7年度 埼玉県新人大会(ベスト32)
1回戦 1月9日 早大本庄 92-45 越谷東
2回戦 1月10日 早大本庄 52-97 伊奈学園総合
令和8年度 北部支部選手権
2回戦 5月2日 早大本庄 74-70 進修館(OT)
代表決定戦 5月3日 早大本庄 59-87 熊谷西
◆バスケットボール部(女子)
北部支部選手権大会
1回戦 5月2日 早大本庄 77-38 深谷商業
2回戦 5月3日 早大本庄 39-89 深谷第一
◆卓球部
令和8年度 卓球学校総合体育大会北部支部予選会(4/20～23)まがやドーム(体育館)
女子学校対抗 優勝
一年ぶりに優勝し、見事王座を奪還しました。

◆七高祭「合同文化祭(2月15日(日))
「七高祭」とは本市市内高校等に通う生徒たちが、若者の目線から本市の魅力を見直し、発信する試みで、本市市のバックアップの元で推進されています。コロナ禍を挟みながらもこの間ずっと活動が継続されており、2024年には令和6年全国広報コンクールで「総務大臣賞・特選」を受賞しています。今年度は、市内高校より本活動への参加者を募り、以下のテーマに沿って調査・研修を実施しました。全参加生徒数約60名のところ、学院生25名と本庄学院からは市内高校で最も多くの生徒が参加しています。

◆早稲田附属系高校サミット(3月22日(日))
早稲田大学3号館602教室で、表記イベントが開催されました。2020年より両高等学院生徒有志によるプロジェクトとしてCWASS(Waseda Affiliated Schools Summit)が動いており、毎年学院生活を充実させるためのアイデアの検討と発表会、文化祭での発表を行っています。今回は、広く系属校にも参加を呼びかけ、両学院・早稲田実業・早稲田大附・早稲田佐賀・早稲田シガボールの生徒も参加し、大きなイベントとなりました。

◆慶應湘南藤沢高等学校の論文オリエンテーションにおける卒論発表(3月10日(火))
論文教育を重視する本庄高等学院と慶應湘南藤沢高等学校の間では、2006年より双方の学校で優秀論文のシンポジウムを開催する取り組みを行っています。慶應湘南藤沢高等学校で開催された論文オリエンテーションに3年福井美緒さんがご招待を受け、卒論「日本とアメリカの学校給食の比較～小学校の献立における主成分分析～」の発表を行いました。

◆ラグビー部
新人戦 北部地区予選
1回戦 12月14日 早大本庄 28 - 24 清川総合
2回戦 12月21日 早大本庄 0 - 47 熊谷工業
関東大会県予選
1回戦 4月12日 早大本庄 58 - 5 合同A
2回戦 4月18日 早大本庄 3 - 53 熊谷
国スポ北部地区予選
1回戦 5月2日 早大本庄 45 - 12 合同A
決勝 5月9日 早大本庄 31 - 24 松山
県北部地区予選を1位通過することができました！5月30日から始まる県予選においてシード権を獲得し、9月から始まる花園予選でベスト8に入ることができるよう日々練習に励んでいます。引き続き応援のほど、よろしくお願致します。学院生諸君、ラグビーは本当に素晴らしいスポーツです！いつもどおり入部OKです。ラグビー経験の有無、運動経験の有無は関係ありません！ラグビーは誰もが主になれるスポーツです！楯岡球に少しでも興味のある人、何か部活に入ろうと考えている人、充実した学院生活を送りたい人は是非グラウンドへ見学に来て下さい！！

◆読書部
2026年埼玉県書き初め中央展覧会
特選賞：井上 優香、瓜田 結香、加藤 沙彩、増岡 彩香
優良賞：岡 明佑香

◆茶道部
本庄東高校茶道部との交流
4月1日(水)午後、本庄東高校(以下、東高)茶道部をお招きして、交流お茶会を開催しました。東高茶道部とは2年前から互いに招待お茶会を開催しています。茶道部のお茶会は、文化祭やお客様のおもてなしなど、通常一般の方に対して行われます。このように、お互い茶道を学んでいる相手に対してお手前をする機会は、その意味で非常に貴重な経験です。

◆自転車部
太田 昌宏(3年)
3/13～16 全国高等学校選抜自転車競技大会(グリーンロード)前橋、日本サイクルスポーツセンター)トラックレース4km速度競争準決勝出場ロードレース出場(DNF)

◆バスケットボール部(男子)
令和7年度 埼玉県新人大会(ベスト32)
1回戦 1月9日 早大本庄 92-45 越谷東
2回戦 1月10日 早大本庄 52-97 伊奈学園総合
令和8年度 北部支部選手権
2回戦 5月2日 早大本庄 74-70 進修館(OT)
代表決定戦 5月3日 早大本庄 59-87 熊谷西
◆バスケットボール部(女子)
北部支部選手権大会
1回戦 5月2日 早大本庄 77-38 深谷商業
2回戦 5月3日 早大本庄 39-89 深谷第一
◆卓球部
令和8年度 卓球学校総合体育大会北部支部予選会(4/20～23)まがやドーム(体育館)
女子学校対抗 優勝
一年ぶりに優勝し、見事王座を奪還しました。

◆七高祭「合同文化祭(2月15日(日))
「七高祭」とは本市市内高校等に通う生徒たちが、若者の目線から本市の魅力を見直し、発信する試みで、本市市のバックアップの元で推進されています。コロナ禍を挟みながらもこの間ずっと活動が継続されており、2024年には令和6年全国広報コンクールで「総務大臣賞・特選」を受賞しています。今年度は、市内高校より本活動への参加者を募り、以下のテーマに沿って調査・研修を実施しました。全参加生徒数約60名のところ、学院生25名と本庄学院からは市内高校で最も多くの生徒が参加しています。

◆早稲田附属系高校サミット(3月22日(日))
早稲田大学3号館602教室で、表記イベントが開催されました。2020年より両高等学院生徒有志によるプロジェクトとしてCWASS(Waseda Affiliated Schools Summit)が動いており、毎年学院生活を充実させるためのアイデアの検討と発表会、文化祭での発表を行っています。今回は、広く系属校にも参加を呼びかけ、両学院・早稲田実業・早稲田大附・早稲田佐賀・早稲田シガボールの生徒も参加し、大きなイベントとなりました。

◆慶應湘南藤沢高等学校の論文オリエンテーションにおける卒論発表(3月10日(火))
論文教育を重視する本庄高等学院と慶應湘南藤沢高等学校の間では、2006年より双方の学校で優秀論文のシンポジウムを開催する取り組みを行っています。慶應湘南藤沢高等学校で開催された論文オリエンテーションに3年福井美緒さんがご招待を受け、卒論「日本とアメリカの学校給食の比較～小学校の献立における主成分分析～」の発表を行いました。

◆ラグビー部
新人戦 北部地区予選
1回戦 12月14日 早大本庄 28 - 24 清川総合
2回戦 12月21日 早大本庄 0 - 47 熊谷工業
関東大会県予選
1回戦 4月12日 早大本庄 58 - 5 合同A
2回戦 4月18日 早大本庄 3 - 53 熊谷
国スポ北部地区予選
1回戦 5月2日 早大本庄 45 - 12 合同A
決勝 5月9日 早大本庄 31 - 24 松山
県北部地区予選を1位通過することができました！5月30日から始まる県予選においてシード権を獲得し、9月から始まる花園予選でベスト8に入ることができるよう日々練習に励んでいます。引き続き応援のほど、よろしくお願致します。学院生諸君、ラグビーは本当に素晴らしいスポーツです！いつもどおり入部OKです。ラグビー経験の有無、運動経験の有無は関係ありません！ラグビーは誰もが主になれるスポーツです！楯岡球に少しでも興味のある人、何か部活に入ろうと考えている人、充実した学院生活を送りたい人は是非グラウンドへ見学に来て下さい！！

◆読書部
2026年埼玉県書き初め中央展覧会
特選賞：井上 優香、瓜田 結香、加藤 沙彩、増岡 彩香
優良賞：岡 明佑香

◆硬式テニス部(男女)
・関東予選大会埼玉県北部地区予選(4月10日～13日)県大会出場分
男子シングルス 7位 中田 琉生、14位 石川 修大、25位 葛田 櫻斗、33位 岩田昊志郎
女子シングルス 4位 齋藤 千咲、14位 松元 瑞希
男子ダブルス 6位 中田・葛田、8位 石川・岩田、15位 塚岡・藤本
女子ダブルス 5位 齋藤・松元、15位 澁谷・川口
・関東予選大会埼玉県大会(個人戦)(4月28日・29日)
男子シングルス ベスト64 中田 琉生
女子シングルス ベスト32 齋藤 千咲
(5月末に行われる学校総合体育大会埼玉県予選会に出場決定)
女子ダブルス ベスト32 齋藤・松元
・関東予選大会埼玉県大会(団体戦)(5月16日・17日)
男子 ベスト16
女子 5位(6月に行われる学校総合大会埼玉県予選会に出場決定)

◆ソフトテニス部(男子)
4/3 県北選手権大会・高校の部 男子優勝 鈴木時範(3D)、浅見陽生(2F)ペア
※1952年から続く、北部・西部地区の学校が出場する大会で、本庄学院生初の優勝です。
4/21・24 関東大会県予選支部大会・男子個人戦優勝 浅見陽生(2G)、星 湊人(1H)ペア
※優勝の浅見・星ペアと枠外(地区予選免除)の鈴木・浅見ペアの2ペアが県大会に出場。
5/4 関東大会県予選・男子個人戦ベスト8 鈴木・浅見ペア ベスト16 浅見・星ペア
※上記2ペアは5/30に茨城県水戸市で行われる関東大会男子個人戦の出場権を獲得しました。

◆バスケットボール部(男子)
令和7年度 埼玉県新人大会(ベスト32)
1回戦 1月9日 早大本庄 92-45 越谷東
2回戦 1月10日 早大本庄 52-97 伊奈学園総合
令和8年度 北部支部選手権
2回戦 5月2日 早大本庄 74-70 進修館(OT)
代表決定戦 5月3日 早大本庄 59-87 熊谷西
◆バスケットボール部(女子)
北部支部選手権大会
1回戦 5月2日 早大本庄 77-38 深谷商業
2回戦 5月3日 早大本庄 39-89 深谷第一
◆卓球部
令和8年度 卓球学校総合体育大会北部支部予選会(4/20～23)まがやドーム(体育館)
女子学校対抗 優勝
一年ぶりに優勝し、見事王座を奪還しました。

◆七高祭「合同文化祭(2月15日(日))
「七高祭」とは本市市内高校等に通う生徒たちが、若者の目線から本市の魅力を見直し、発信する試みで、本市市のバックアップの元で推進されています。コロナ禍を挟みながらもこの間ずっと活動が継続されており、2024年には令和6年全国広報コンクールで「総務大臣賞・特選」を受賞しています。今年度は、市内高校より本活動への参加者を募り、以下のテーマに沿って調査・研修を実施しました。全参加生徒数約60名のところ、学院生25名と本庄学院からは市内高校で最も多くの生徒が参加しています。

◆早稲田附属系高校サミット(3月22日(日))
早稲田大学3号館602教室で、表記イベントが開催されました。2020年より両高等学院生徒有志によるプロジェクトとしてCWASS(Waseda Affiliated Schools Summit)が動いており、毎年学院生活を充実させるためのアイデアの検討と発表会、文化祭での発表を行っています。今回は、広く系属校にも参加を呼びかけ、両学院・早稲田実業・早稲田大附・早稲田佐賀・早稲田シガボールの生徒も参加し、大きなイベントとなりました。

◆慶應湘南藤沢高等学校の論文オリエンテーションにおける卒論発表(3月10日(火))
論文教育を重視する本庄高等学院と慶應湘南藤沢高等学校の間では、2006年より双方の学校で優秀論文のシンポジウムを開催する取り組みを行っています。慶應湘南藤沢高等学校で開催された論文オリエンテーションに3年福井美緒さんがご招待を受け、卒論「日本とアメリカの学校給食の比較～小学校の献立における主成分分析～」の発表を行いました。

◆ラグビー部
新人戦 北部地区予選
1回戦 12月14日 早大本庄 28 - 24 清川総合
2回戦 12月21日 早大本庄 0 - 47 熊谷工業
関東大会県予選
1回戦 4月12日 早大本庄 58 - 5 合同A
2回戦 4月18日 早大本庄 3 - 53 熊谷
国スポ北部地区予選
1回戦 5月2日 早大本庄 45 - 12 合同A
決勝 5月9日 早大本庄 31 - 24 松山
県北部地区予選を1位通過することができました！5月30日から始まる県予選においてシード権を獲得し、9月から始まる花園予選でベスト8に入ることができるよう日々練習に励んでいます。引き続き応援のほど、よろしくお願致します。学院生諸君、ラグビーは本当に素晴らしいスポーツです！いつもどおり入部OKです。ラグビー経験の有無、運動経験の有無は関係ありません！ラグビーは誰もが主になれるスポーツです！楯岡球に少しでも興味のある人、何か部活に入ろうと考えている人、充実した学院生活を送りたい人は是非グラウンドへ見学に来て下さい！！

◆読書部
2026年埼玉県書き初め中央展覧会
特選賞：井上 優香、瓜田 結香、加藤 沙彩、増岡 彩香
優良賞：岡 明佑香

◆茶道部
本庄東高校茶道部との交流
4月1日(水)午後、本庄東高校(以下、東高)茶道部をお招きして、交流お茶会を開催しました。東高茶道部とは2年前から互いに招待お茶会を開催しています。茶道部のお茶会は、文化祭やお客様のおもてなしなど、通常一般の方に対して行われます。このように、お互い茶道を学んでいる相手に対してお手前をする機会は、その意味で非常に貴重な経験です。

◆自転車部
太田 昌宏(3年)
3/13～16 全国高等学校選抜自転車競技大会(グリーンロード)前橋、日本サイクルスポーツセンター)トラックレース4km速度競争準決勝出場ロードレース出場(DNF)

◆バスケットボール部(男子)
令和7年度 埼玉県新人大会(ベスト32)
1回戦 1月9日 早大本庄 92-45 越谷東
2回戦 1月10日 早大本庄 52-97 伊奈学園総合
令和8年度 北部支部選手権
2回戦 5月2日 早大本庄 74-70 進修館(OT)
代表決定戦 5月3日 早大本庄 59-87 熊谷西
◆バスケットボール部(女子)
北部支部選手権大会
1回戦 5月2日 早大本庄 77-38 深谷商業
2回戦 5月3日 早大本庄 39-89 深谷第一
◆卓球部
令和8年度 卓球学校総合体育大会北部支部予選会(4/20～23)まがやドーム(体育館)
女子学校対抗 優勝
一年ぶりに優勝し、見事王座を奪還しました。

◆七高祭「合同文化祭(2月15日(日))
「七高祭」とは本市市内高校等に通う生徒たちが、若者の目線から本市の魅力を見直し、発信する試みで、本市市のバックアップの元で推進されています。コロナ禍を挟みながらもこの間ずっと活動が継続されており、2024年には令和6年全国広報コンクールで「総務大臣賞・特選」を受賞しています。今年度は、市内高校より本活動への参加者を募り、以下のテーマに沿って調査・研修を実施しました。全参加生徒数約60名のところ、学院生25名と本庄学院からは市内高校で最も多くの生徒が参加しています。

◆早稲田附属系高校サミット(3月22日(日))
早稲田大学3号館602教室で、表記イベントが開催されました。2020年より両高等学院生徒有志によるプロジェクトとしてCWASS(Waseda Affiliated Schools Summit)が動いており、毎年学院生活を充実させるためのアイデアの検討と発表会、文化祭での発表を行っています。今回は、広く系属校にも参加を呼びかけ、両学院・早稲田実業・早稲田大附・早稲田佐賀・早稲田シガボールの生徒も参加し、大きなイベントとなりました。

◆慶應湘南藤沢高等学校の論文オリエンテーションにおける卒論発表(3月10日(火))
論文教育を重視する本庄高等学院と慶應湘南藤沢高等学校の間では、2006年より双方の学校で優秀論文のシンポジウムを開催する取り組みを行っています。慶應湘南藤沢高等学校で開催された論文オリエンテーションに3年福井美緒さんがご招待を受け、卒論「日本とアメリカの学校給食の比較～小学校の献立における主成分分析～」の発表を行いました。

◆ラグビー部
新人戦 北部地区予選
1回戦 12月14日 早大本庄 28 - 24 清川総合
2回戦 12月21日 早大本庄 0 - 47 熊谷工業
関東大会県予選
1回戦 4月12日 早大本庄 58 - 5 合同A
2回戦 4月18日 早大本庄 3 - 53 熊谷
国スポ北部地区予選
1回戦 5月2日 早大本庄 45 - 12 合同A
決勝 5月9日 早大本庄 31 - 24 松山
県北部地区予選を1位通過することができました！5月30日から始まる県予選においてシード権を獲得し、9月から始まる花園予選でベスト8に入ることができるよう日々練習に励んでいます。引き続き応援のほど、よろしくお願致します。学院生諸君、ラグビーは本当に素晴らしいスポーツです！いつもどおり入部OKです。ラグビー経験の有無、運動経験の有無は関係ありません！ラグビーは誰もが主になれるスポーツです！楯岡球に少しでも興味のある人、何か部活に入ろうと考えている人、充実した学院生活を送りたい人は是非グラウンドへ見学に来て下さい！！